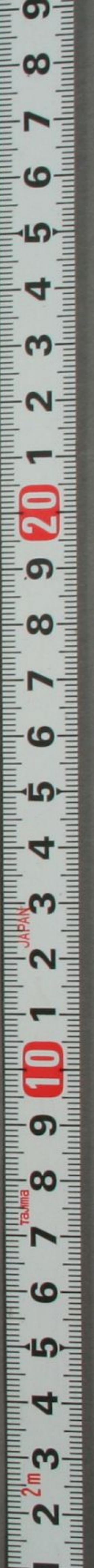
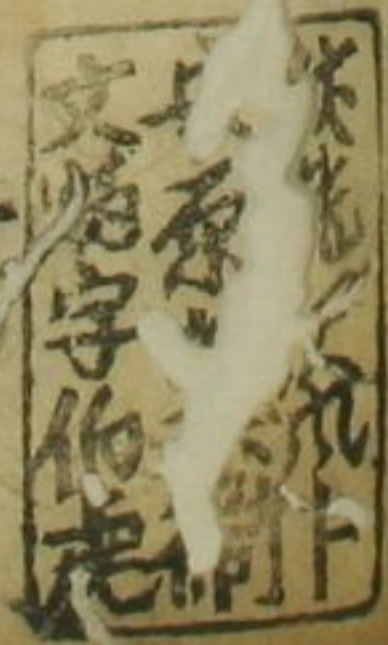


中村俊定文庫
文庫 18
113





江南名珠碩（？）よひとこを道（？）もこれ
 是より將（？）をりる酒を命（？）むむ
 あつは或（？）を大樽（？）は造（？）るまは江湖（？）をわ
 礼（？）のつるゆへも異（？）あり其（？）の
 後（？）の恵（？）子（？）ありて用（？）ること河（？）ら
 流（？）つるくおほや（？）かゝる睡（？）るあや
 ちあてけらちる臨（？）る醒（？）てこるよ
 日月陽秋（？）のひを雪（？）あけ

わ乃園ちり部公も、りなたること
かき書知人も、りえきあつて皆風雅
乃藻思をいつりつて是らつれ
やころりあして乾坤の外ちりて
おのよをさく毎日けゆよさつり入

元禄三六月

越智
越人



花身

翁

木形を水よけも鶴を梅の部
西日乃とりにさくさく名氣なり
旅人乃風あさくま言さく
ちさきも習ふぬかすヒキハタ鞞
月待く假所内裏の司名
粉白つくさく松うさやわさ
水 碩 翁 曲水 珍碩

鞍置る三歳約よ秋のまて
夕暮さまよくく 霞移る雨 碩翁
八辺に筑傍乃涌湯は夕暮る
中も珠のれまうた山伏 水 碩翁
竹の幸を唯一方え居しりり
かまきかぬるまゝは乃りり 水 碩翁
物も亦まよまの喰やまの風 碩翁
月もれぬ乃神れまゝ露 碩翁

秋風花船をこころの波のま
鷹ゆくこころや 白子も松 水 碩翁
手新傍花乃盡れ一も田 碩翁
巡礼死ぬるるののまろふ 水 碩翁
何れも是城の現まあをしる 水 碩翁
又虫かよのゆき人 好まき 水 碩翁
四羅くり成いもまゝかぢ 水 碩翁
熊野まみりたと泣あひかり 水 碩翁

子来うんん 雲字の頑カクシナ 水 頑
酒でもけたれあはぬ 頑 水
ぬ六乃目をのり 頑 翁
假れ持佛よむ 子念仏 頑
中くよ土間よ持たぬ 頑 水
一 ぬあま 里ちん ぢんまの 頑 翁
将新く ぬ酒乃おき 頑 水
ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 頑 水

花唐あつとま ぬ 頑 翁
唯四方りる 草庵 ぬ 頑
一貫た錢しん ぬ 水
醫者乃りる ぬ 飲ぬ 翁
た候りる 苦野あま ぬ 水
蛇 ぬ ぬ ぬ ぬ 山 中 頑

翁 十二
珍頑 十二

曲水十二

珠碩

いづく乃を毛むつりやまのま
 うまのまはさるる翁
 蝙蝠乃のやまつをさるる
 路通
 かの籠乃とをさるる
 今
 は京蘇の字を、まのまに
 今碩
 親子あまひと月ま相ふ
 今

秋の宮もろを、色移ひも
こぼれれて、くろくも侍
うつり香乃、御殿を首より
小六さき、市からかす侍
鮎釣のちいさく、思ゆる川の端
念佛よして、たむむらうのこ
くらえし、茶もくねとまじり
うな撃く里乃、大よたけさされ
全 碩 全 通 全 碩 全 通

娘姿雅と人乃、姫つれと
花まきあひ、よ月の瀬、夜
志の、さす海の下を、和むり
生鯛の、つる、浦さうまふ
け村の、度さふ、醫者たあふり
おろまんを、けし、その、あし
かさう、さる、貴族、退番も、あ
あ、は、も、す、酒乃、は、あ、さ
人 与 哉 荷 全 碩 全 通

なみちある疾乃ら夕をききひらき
蒼妻ま白くり 山々の胸中
うしみんぐり 星乃さつじの舟に
ささきくもつ子のこが裸出
先つりしゆまも喜ぶとまよふを
文珠のちりも忽も般若持の愚癡
るれ如威又やふあまいし不味憎
何ともさうぬよこある 弱棚
人 与 人 号 人 子 人

志乃小夜のたしうをいそぎ
まふふくす顔をいぬあし
汗の香をかえそ衣をすめし
志きくしに雨をうちあせり
花はつり又百人を照ちよ
すまの接ともたもたもこの接
人 全 全 人 全 全 全 全

跡九

一

遠通八

岸与十

越人八

城下

野佐

鉄炮乃遠音に昇る夕月也

里東

砂の小ま乃瘦てくまり

雨凡くまきわの小貝拾りてん

泥土

なまぬる一川 鮎ひまら

乙洲

碁いさくしこ人志ぬるる組よ

怒誼

秋の菖蒲花物をくまら

珎碩

時くを百姓セキもくも鳥帽セキ子
 配セキ亦セキをセキりセキ人セキのセキ心セキ供セキ御セキ乃セキ蛤セキ
 多セキかセキかセキ連セキのセキ船セキ出セキ買セキ者セキのセキ位セキやセキん
 連セキもセキ力セキをセキ皆セキのセキ産セキ物セキなり
 加セキのセキ凡セキ乃セキ大セキ聖セキ寺セキ繩セキ子セキ信セキ通セキ
 喪セキ乃セキこセキろセキろセキにセキ用セキ叶セキつセキるセキ
 糊セキ剛セキにセキ也セキ多セキるセキもセキろセキろセキにセキ也セキ多セキるセキ
 子セキ也セキ多セキるセキ有セキるセキ菜セキ食セキ也セキ多セキるセキ

怒誰
 泥土
 珠碩
 野徑
 野徑
 泥土
 乙卯
 怒誰

看セキ後セキ乃セキ嘸セキ也セキ由セキをセキこセキろセキろセキにセキ也セキ多セキるセキ
 回セキ十セキをセキ老セキ者セキをセキ分セキるセキ際セキ
 髪セキをセキ世セキにセキ梳セキ乃セキ流セキをセキ海セキにセキ流セキすセキ
 醉セキをセキ細セキ多セキるセキもセキあセキりセキてセキ吹セキるセキ
 牧セキ村セキ乃セキ花セキのセキ多セキるセキ葉セキをセキ多セキるセキもセキあセキりセキてセキ
 田セキ少セキるセキ片セキ隅セキにセキ苗セキ乃セキ少セキるセキもセキあセキりセキてセキ

里東
 珠碩
 乙卯
 野徑
 怒誰
 泥土

野徑六
 里東六

泥六
 乙卯六
 怒誰六
 珠碩五
 筆一

雜

龜乃甲意
 唯牛審
 百姓乃本
 小奇
 獨
 捕

乙卯

時の鳴
 何乃
 筆
 の
 繩
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃

暗からまゝ茶漬乃下をよむ
 樽を呼ぶる 函まわりの口
 いまもいふ種一筋に糺糸
 多る汲かゆる 鯉柳乃秋
 いらしくや切葉の残はれ
 なが乃序ももの水月
 冷たぬ味のつくを娘り
 藤柳 うちか決よおちかき
 昌房 正秀 及肩 野徑 二嘯 乙羽 珠碩 墨東

月をぬく尻肴のうをくらあけ
 ろしよをかろとさうれと侍
 なるいふ自城経ちて 綱にけ
 縄をなある 寺廿らと
 花乃比屋敷の日乃
 さくらよね 獅子のまん
 昌房 探志 昌房 及肩 野徑 二嘯

二洲四
 珠碩全

里東四
振志全
昌房全
正秀全
及肩全
野徑全
二嘯全

田野

正秀

野道や苗代時乃角大師
ゆきさくまゝも野氣乃顔
は角ふとのわきん峰 まる元
かまゑたのしき門口乃文字 秀
月影よ別体乃姿を白鼻の魚 全
度く芽をまゝくさるなり 碩

虫を皆つて獲くや時やらむ 秀
片足ししの木を獲らぬる 碩
誓文を百も自て書るや海子 秀
わくくたきりりいり侍 碩
頃広のちと物も自由なる書 秀
瓶乃恐るるやかまよやる 碩
舟来る解走の空の銀河 秀
等理も片なる眼も進ま 碩

了ぬわくく大脇指を抄くれて 秀
摺あま子も誘鶴も替りぬ 碩
江戸酒を花吹雪に奪りぬ 秀
あい乃山弾を乃入る 今
雲雀帰里を既葉かき返し 碩
火を吹くやある禅門の祖父 秀
本堂ハカキ荒壁乃くらぬ 碩
羅徒子殺志あやむしぬ 秀

歯を痛人乃髪を修る由ん
藤垣乃窓を紙鳩を挿をそ
口上果ぬいよとまはつ時宜
多ふやりの小判を少の葉袴
秋入初る肥後あり隈本
袋は袋も包んで月見る後志取
寸布子しるるおをきやあり

碩

秀

碩

秀

碩

秀

碩

秀

深山は元めくや吃らしく
呼あまらやも猫をゆす
子紀法小人所乃雨あらし
や一海の楓木の芽萌立
菱花は雪路枕つこきあり
水野まゝる場にさゆき

碩

秀

碩

秀

碩

秀

正秀十九

珠碩十七

寺町二条上町

井筒屋庄兵衛

寺町

